

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	
園名	まちっこ保育園

## 1. 活動のテーマ

## &lt;テーマ&gt;

科学遊び（野菜の浮き沈み実験、ドライアイスで遊ぼう）

## &lt;テーマの設定理由&gt;

- ・ プール遊びの最中に、沈む玩具と浮く玩具があることに気付く。いろんな物を浮かそうというアイデアが出たため玩具の他にも育てていた夏野菜を試してみることにした。
- ・ ドライアイスを使った実験は大人でも楽しく夢中になったことから、子どもたちともその楽しさを共有したいと思った。

## 2. 活動スケジュール

## &lt;野菜の浮き沈み実験&gt;

- ・ プール遊びで玩具の浮き沈み遊びを行う。7月～
- ・ プールで夏野菜の浮き沈み実験を行う。8月 1回

## &lt;ドライアイスで遊ぼう&gt;

- ・ ドライアイスを使ってシャボンドームを作る。6月



### 3. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

##### <野菜の浮き沈み>

- ・野菜（にんじん、じゃがいも、たまねぎ、すいか、きゅうり）、バケツ、透明ボックス
- ・活動は小グループで行う。実験する前に、水に入れた野菜がどうなるかを予測した後で、野菜の浮き沈みを実験する。

・すいかは子どもたちの予想では“浮く、”ということだったが、実際に浮いたところは見ることがなかったため、本当に浮くと歓声があがった。また何度も手で押して沈めようとする姿も見られた。他の野菜も同様に浮いた野菜を沈めようとするがまた浮いてくる様子を楽しんでいた。

##### <ドライアイスを使って遊ぼう>

- ・ドライアイス、台所用液体洗剤、バケツ、段ボール、紙コップ
- ・机の前に椅子を並べグループ毎に観察できるように環境を設定。

・ドライアイスを知っている児が多かったが、白い煙が出る現象に大きな歓声が上がった。シャボンドームでは膨らむ様子、割れた瞬間に煙が出る様子にすごい、もう一回やって、などの声が聞かれた。そのうち触ってみたいという声が多数聞かれ順番で触る体験も行った。

### 4. 振り返り

#### <振り返りによって得た先生の気づき>

##### <野菜の浮き沈み>

・野菜の浮き沈みでは、実験を行う前に結果を予測することで子どもたちが思考する姿が見られた。また、自身で実験することによって結果が外れても楽しんで行うことができた。後日、自宅でも野菜の浮き沈みの実験を行ってみたという声が多数聞かれた。

##### <ドライアイスを使って遊ぼう>

・活動終了後は、楽しかった、もう一度やってみたいという声やシャボンドームに触れ冷たい、雲みたい、食べてみたいなど子どもならではの感想も聞かれた。またシャボンドームの中には空気があるという声が聞かれるなど、子ども自身で考える姿に感心させられた。

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	
園名	まちっこ保育園

### 1. 活動のテーマ

#### <テーマ>

自然遊び（ダンゴムシ迷路・どんぐりを使った遊び）

#### <テーマの設定理由>

月刊誌の付録にダンゴムシ迷路・どんぐり迷路があり、それを行いたいとの声上がる。

### 2. 活動スケジュール

- ・ダンゴムシ迷路を持って散歩に出掛け、ダンゴムシを見つけ迷路を楽しむ。 4月～
- ・どんぐり収集に出掛ける。10月～
- ・室内でどんぐり迷路を楽しむ。10月～12月
- ・どんぐりを使用してクリスマスツリーの飾りつけを行う。12月
- ・どんぐりコマを作る。12月

### 3. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

- ・ダンゴムシ、迷路（月刊誌付録）
- ・公園に行く際は毎回リュックに迷路を準備して行く。
- ・ダンゴムシ探しから始まり、どこに生息しているのか子どもたち自身で探し合う姿が見られた。探すことが苦手な友だちには、見つけたダンゴムシを分け与えるなどの関わりもあった。ゴールすることができるダンゴムシ・途中で止めてしまうダンゴムシなど様々な姿があり、ダンゴムシの貸し借りをを行う場面もあった。
- ・どんぐり、迷路（月刊誌付録）、つまようじ、絵具、色模造紙、色紙、ボンド
- ・どんぐり収集を目的とした散歩を設定し、様々な種類のどんぐりが収集できるようにする。
- ・子どもたち主体でどんぐりを収集する姿が見られた。自分たちでどんぐりの違いを発見し、その違いを保育士に伝える姿も見られた。迷路ではどうすればゴールできるのか様々なアイデアを出し合いながら楽しむことが出来ていた。「どんぐりゴマも作りたい」「どんぐりに顔を描きたい」との声も上がり、遊びが発展していった。



### 4. 振り返り

#### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・迷路のみに留まらず、クラス内でダンゴムシについて詳しく調べることができた。（足の本数、雄雌の違い、えさ）最初は迷路を行うことが目的だったが、ダンゴムシそのものに興味関心が向き子どもたちが観察し思考する姿が見られた。また、ダンゴムシの他にも様々な虫を発見し、これは何という虫なのか自分たちで図鑑を用いて調べることもできた。
- ・どんぐり遊びでは、まずはどんぐりには色んな種類があることを知り、楽しみながら収集することができた。「どんぐりのぼうしがあった」「これは赤ちゃんどんぐり、大きいのはお父さんどんぐり」など、子どもたちの想像力をかきたてる楽しい時間となった。迷路から駒、駒からクリスマスツリーと子どもたちから生まれたアイデアを形にすることで、主体的に取り組む姿が見られた。

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	
園名	まちっこ保育園

### 1. 活動のテーマ

#### <テーマ>

絵本の世界を表現しよう

#### <テーマの設定理由>

子どもたちが好きな絵本「ブレーメンの音楽隊」を劇遊びに取り入れる。何度も読みよく知っている内容のため、子どもたちにも親しみがあつた。

### 2. 活動スケジュール

- ・絵本を読み聞かせ役ごとのイメージを膨らませる。：12月～
- ・役ごとに分かれダンスやセリフを自分たちで決め練習を重ねる。1月～
- ・発表会で絵本の世界を表現する。2月

### 3. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり等を記載ください。

・紙皿、絵具、画用紙

・役ごとにダンスやセリフを考え発表することで自主練する姿が見られた。子どもたち自身が表現する楽しさを知ることができた。

・上手くできた時はお互いに褒め合い、子どもたち自身で士気を高め自信をもって表現することができた。



#### 4. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・劇の練習を通して友だちから認めてもらう喜びを知り、人前での発表も楽しんで行うようになった。声掛けひとつでどんどん動きが良くなってくるのを目の当たりにして「褒め合う」ことが子どもたちのやる気に繋がっていると感じた。
- ・子どもたちで話し合う機会も多く設けることで、「自分たちで作り上げる」ことへの意識が芽生え友だちの意見を聞くことができるようになった。就学に向け良い経験になったと感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-
施設名	まちっこ保育園
施設所在地	町田市南大谷3-7-20
法人名	社会福祉法人 飛翔会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

絵本の世界に入り込んで表現遊びを楽しもう。

<テーマの設定理由>

子どもたちに絵本の読み聞かせを行なったところ、登場人物になりきってごっこ遊びを始める。絵本の内容やそれぞれの登場人物の気持ちを理解し、日々の集団生活で相手を 思いやる気持ちを育んで欲しいと感じた為。

2. 活動スケジュール

- ・様々な絵本を読み聞かせを行う。10月～
- ・興味や関心が深かった題材を選び、発表会ごっこを行う。11月～
- ・子どもたちにアンケートを行い、自分が演じたい配役を決める。12月～
- ・踊りの振りや仕草などを子どもたちからアイディアを引き出す。また、小道具や大道具を子どもたちと一緒に作成。1月～
- ・発表会ごっこをして楽しむ。発表会に参加し異年齢児や保護者に観てもらい表現をする喜びや楽しさを経験する。2月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具) 絵本、衣裳、ピアノ、廃材（段ボールやペットボトルなど）、うちわ、絵の具、模造紙、 画用紙など。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

絵本の読み聞かせを行い、子どもたちの興味や関心を引き出す。子どもたちが自主的にごっこ遊びを始められるように遊びに繋がる声掛けをする。ごっこ遊びに展開が持てるよう環境設定を行う。自分たちで絵本のストーリーを理解し、遊びも中での延長として発表を行う。最低限の演技指導などを行う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等) 日々の生活の中で役になりきりごっこ遊びをしたり、配役毎に遊んで一緒に行動して楽しむ。戸外でも配役になりきって草村に隠れたり、隠れん坊をしたり、散歩の道中で進んで 歌を歌ったり、台詞を言ってイメージを膨らませる姿が見られた。廃材を使って大道具等 を一緒に制作をし、より一層ごっこ遊びを楽しむ姿が見られていた。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

普段の関わりの中から表現遊びを上手く展開させることが出来たと感じる。

友だちや保育者の遊んでいる姿を見せ、興味が持てるような雰囲気や環境設定を行う。

その結果、友だちの楽しむ様子を知り、少しずつ興味や関心が高まり一緒に行う楽しさを体験出来たようだ。

個々の気持ちに寄り添う大切さを感じたり、大人が主体となるのではなく、子どもが主体になるように今後も意識していきたい。



## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	
園名	まちっこ保育園

### 1. 活動のテーマ

#### <テーマ>

絵本の世界を体感しよう

#### <テーマの設定理由>

絵本に出てくる船に興味を持ち、「船をつくりたい」との声が上がる。そこで絵本の世界を実際に形にしてみることにする。

### 2. 活動スケジュール

- ・廃材を使いグループに分かれ船を制作。船から魚へとイメージが広がり、様々な魚も制作する。：6月～
- ・魚から水族館へと関心が広がり水族館を作り、全園児を招待する。また自分たちが水族館の仕事を体験する。  
(受付、イルカショー係、案内係など)：8月 4回実施
- ・秋遠足に水族館へ行く。：10月
- ・保育参観では保護者がお客さんになり一緒に水族館ごっこを楽しむ。：10月

### 3. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

・段ボール、廃材（画用紙の端切れ、エアパッキン、トイレットペーパーの芯、牛乳パック、ポリ袋）

・4～5 人の少人数のグループに分かれて制作。水族館の係もグループごとに役割を設定し、全ての役割を体験できるようにする。

・船や魚の制作ではグループごとにアイディアを出し合い協力して行う姿が見られた。

・水族館を開催したことで、ひとり一人自分の役割を一生懸命に行い他児をもてなす楽しさを体験することができた。終わった後は皆に充実した表情がみられ「楽しかった、またやりたい」との声が聞かれた。

・水族館への遠足は行く前から楽しみにしており、自分が見たかった魚を見つけると食い入るように観察する姿が見られた。また、実際の大きさや特徴に驚き様々な発見を保育士に伝える姿があった。



### 4. 振り返り

#### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・船の制作では内部の構造まで興味を持ち、キッチンやマイク、椅子やテーブルなども作るなど、細部までのこだわりが見られた。また魚も同様に色やヒレに着目し、魚の特徴を捉えた出来栄に驚かされた。制作回数を重ねるたびに子どもたちの想像の広がりを感じることができた。
- ・水族館開催では協働作業が随所にみられ、主体的に関わることも多く見られた。遠足では魚について子どもたちに新たな発見があり、思考する姿を見ることができた。与えられた活動ではなく、自分たちで発展させていく活動の大切さを改めて感じた。

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	-66
施設名	まちっこ保育園
施設所在地	町田市南大谷3-7-20
法人名	社会福祉法人飛翔会

### 1. 活動のテーマ

#### <テーマ>

自然遊び(クワガタの観察)

#### <テーマの設定理由>

「虫の飼いかたさがしかた」の図鑑に興味を持った子どもの姿があり、散歩先で見つけクワガタを飼育観察する。

### 2. 活動スケジュール

・自然豊かな公園に散歩に出掛け、季節の虫に興味を持つ(4月) ・散歩先で偶然クワガタを見つけ捕獲する。(8月) ・飼育容器を用いて飼育し、餌やりや観察を行う(8月) ・クワガタの命の終わりを経験する。(8月)

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・飼育容器、餌、落ち葉、枯れ木

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

クワガタの飼育方法を図鑑を元に環境を工夫する。餌やりは、友だちと一緒に協力したり順番に行う。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

オスとメスの違いに気付く児がおり、その違いを保育者や友だちに知らせる姿が見られた。直接触れることが苦手な友だちには、触れても良い箇所を伝える場面があった。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

・クワガタの飼育を通じて、クラス内で図鑑を用いてクワガタについて深く学ぶ良い機会となった。昆虫が好きな児は、クワガタの動きや生態を観察できたことでより一層知識が深まった様子が見られた。また、愛着が湧き名前をつけたり得た知識を友だちや保育者に発表できる良い機会を設けることができた。それらを通して、クラス内でクワガタに興味関心が深まり、虫が苦手な子が「触れてみよう」「餌をあげてみよう」と興味関心が向き観察する姿へと変化が生まれた。